



News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 482号

2015. 3. 16

発行責任者

岸田義典

目次

2015

Vol. 3

- 米国の果実生産最新事情
(独) 農研機構/生研センター園芸工学研究部
山本聡史氏 2
- SIMA Innovations Awards 2015..... 12
- 国別輸出入 (2015年1月)..... 15
- WORLD NEWS..... 20
- EVENTS CALENDER..... 21

米国の果実生産最新事情

(独) 農研機構／生研センター園芸工学研究部

山本聡史氏

国際農業機械化研究会は、(株)新農林社と共催で、第 482 回海外農業機械事情報告会を平成 27 年 2 月 25 日(水)に開催した。講師は、農研機構／生研センター園芸工学研究部の山本聡史氏。同氏は、生研センターでイチゴパック詰めロボット等の緊プロ事業に携わった後、在外研究制度を利用し、平成 26 年 6 月 1 日～12 月 28 日の 7 ヶ月間米国ワシントン州立大学灌漑農業研究センターに留学。その期間の研究内容と併せ、米国の果実生産最新事情を、資料をもとに報告した。

要旨は以下の通りである。

講師略歴

1999 年に生研機構に入所し、基礎技術研究部で 3 年間、農用車両の自動化の研究を行いました。2002 年から 2 年間、農林水産省技術会議事務局に出向し、2004 年から生研センター園芸工学研究部で、果樹用機械の開発に 2 年間、施設関係のロボット開発に 8 年間関わり、2014 年度から調製貯蔵分野を担当しています。

これまでの研究内容は、無人トラクタの他、カーナビをトラクタに導入するようなイメージの農作業ナビゲータの研究に関わりました。また、地磁気方位センサを使った自律直進車両の開発にも関わり、自動追従車両の研究もしました。果樹関係では、傾斜地果樹用多目的モノレールと剪定枝粉碎搬出機の開発をお手伝いしました。園芸施設分野では、イチゴ収穫ロボットやイチゴパック詰めロボット、移動栽培装置と組み合わせたイチゴ生育診断技術の研究を行い、イチゴ収穫ロボットをテーマにして学位を取得しました。

トピック

農研機構の留学制度として在外研究制度があります。私はこれを利用して 7 ヶ月間米国のワシントン州立大学灌漑農業研究センターで画像処理に関する研究を行いました。本日は、その滞在期間中に得られた情報についてお話ししたいと思います。

トピックとしては、在外研究について概要を説明

した後、ワシントン州の果樹生産の概要を紹介し、展示会等で得られた果樹用機械についての情報をお話しします。また、ワシントン州立大学灌漑農業研究センターの研究事例も紹介したいと思います。

さらに、カリフォルニア州のイチゴ生産に関する技術についても説明します。カリフォルニア州では、スペインのベンチャー企業が独自のイチゴ収穫ロボットの開発と実証試験を実施していました。また、イチゴの苗生産会社の自動選別システムやベリー関係の大手生産法人のドリスコル社で使用している機械についても紹介します。

在外研究の概要

簡単に在外研究の概要をお話しします。在外研究は、「農研機構職員の資質向上等を図るため、外国の大学若しくは試験研究機関又はこれらに準ずる外国の公共的機関において試験及び研究並びに調査を行う」という主旨で行なわれています。

私には、海外の最新技術を勉強して今後の研究に活かしたいという長年の夢があり、緊プロのイチゴパック詰めロボットの開発も順調に進捗し、ちょうど区切りのいい時期に当たったこともあり、長期在外研究に応募しました。長期在外研究の応募要件として、派遣年度の 4 月 2 日で 40 才未満という制限があるのですが、私は 39 才にしてようやくチャンスが掴むことができた訳です。派遣期間は、平成 26 年 6 月 1 日～12 月 28 日の 7 ヶ月間でした。課